

潜水艦の長射程弾開発へ

防衛省、三菱重工と契約

防衛省は十一日、潜水艦から発射可能な長射程ミサイルの開発に着手し、七月に三菱重工業と契約したと発表した。開発期間は一〇二三年一七年度。相手

国の艦艇に加え、対地攻撃も可能な仕様にする方針。地上や艦艇、戦闘機から発射するタイプと共に、他国領域のミサイル基地などを破壊する反撃能力（敵基地攻撃能力）への活用も想定する。

防衛省は、国産の12式地対艦誘導弾の射程を延ばす「能力向上型」と、島しょ

相手に見つかりづらいメリットがある」と強調。一方で発見されなければ相手国付近からの発射も可能になり、周辺国の反発を招きかねない。

防衛省は、国産の12式地対艦誘導弾の射程を延ばす「能力向上型」と、島しょ

を「より早期に配備するものとして計画した」と説明した。

防衛省は、国産の12式地対艦誘導弾の射程を延ばす「能力向上型」と、島しょを「より早期に配備するものとして計画した」と説明した。

防衛省は、国産の12式地対艦誘導弾の射程を延ばす「能力向上型」と、島しょ

を「より早期に配備するものとして計画した」と説明した。

政府は長射程ミサイルを

巡り、昨年十一月に決定した防衛力整備計画で、潜水艦への極超音速弾の搭載に

向けて「垂直ミサイル発射システム(VLS)」の開発を目指すと明記した。防衛省によると、潜水艦への

トマホーク配備は予定して

潜水艦への搭載は、発射拠点を多様化することで全ての反撃手段を失う可能性を低くするのが目的で、防衛省の担当者は「潜水艦は

関係者によると、潜水艦

を「より早期に配備するものとして計画した」と説明した。

政府は長射程ミサイルを

巡り、昨年十一月に決定した防衛力整備計画で、潜水

艦への極超音速弾の搭載に